

【問 13-18】 次の 13-18 の空欄に正しい単語を埋めよ。

大動脈瘤の形状としては囊状瘤と紡錘状瘤があり、破裂リスクが高いのは(13)瘤である。大動脈瘤患者の降圧療法の第一選択薬は(14)であり、降圧目標値は 120mmHg 以下である。

β -blocker

囊状

内胸

冠動脈バイパス手術で用いられるグラフトとして、代表的なものは、左右(15)動脈である。経皮的冠動脈形成術の問題点の一つとして再狭窄があり、再狭窄を克服するために開発されたステントが(16)ステントである。ステント血栓症は、血栓症発症の時期に応じて、急性、亜急性、遅発性、(17)に分けられる。ST 上昇型心筋梗塞の合併症として代表的な不整脈として心室細動があり、直ちに(18)を行わなければならない。

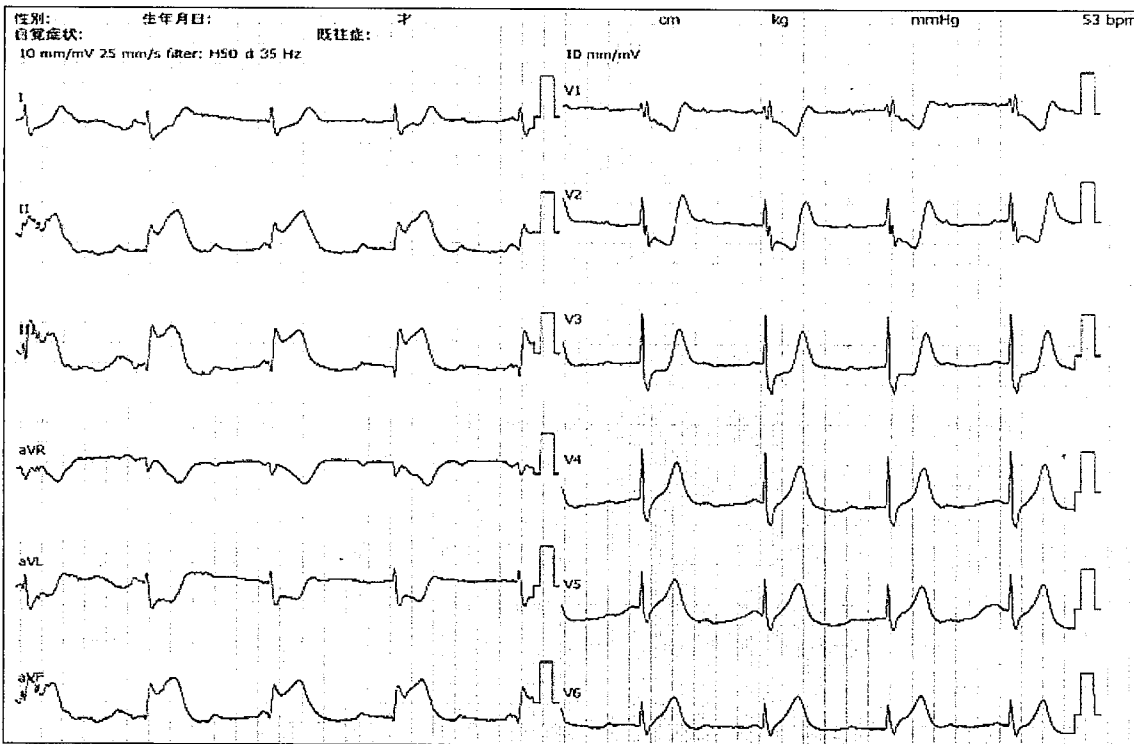
薬剤誘発性, 超急性性, 除細動

【問 19】 ショックについて正しいものを 1 つ選択せよ。

- a. 頸静脈の怒張をきたしているようなケースでは、出血によるショックなどが疑われ、輸液や輸血を考える必要がある。
- b. 心原性ショックのほとんどが心不全に由来するものである。
- c. 肺動脈楔入圧は出血によるショックでは低下している。
- d. PCPS による治療が行われることがあるが、血液の酸素化は別途行う必要がある。
- e. ほとんどの心原性ショック症例は来院時に血圧低下を来しており、迅速な対応が必要となる。

【問 20-23】 下記の心電図所見について、空欄に単語・数字を記入し、文章を完成させなさい。

70 歳男性. 夜間就寝中に突然出現した前胸部痛が持続するため、救急外来を受診した. 受診時の心電図所見を以下に示す. 空欄に単語を記入し、文章を完成させなさい。



肢誘導の ST 変化より、本症例の病態診断は(20)である。急性下壁心筋梗塞

QRS 波のレートは 53/分であるが、P-P 間隔は、約(21)秒(少数第 1 位までの記載で可)であり、P 波と QRS 波の対応関係から、本例の調律診断は、(22)である。責任血管として(23)の閉塞による合併症と考えられる。

0.4, 完全房室ブロック, 右冠動脈(房室結節枝)

【問 24-37】 次の 24-37 の空欄に正しい単語を埋めよ。

大動脈弁疾患には、大動脈弁閉鎖不全症と(24)があり、大動脈弁は、右冠尖、左冠尖、無冠尖の三つの弁尖から成る。 ^{AS}

大動脈弁閉鎖不全症では左室(25) ^{容量} 負荷により左室拡大をきたすが、原因として、弁尖の異常と大動脈基部の異常の二つに大別される。

大動脈弁狭窄症の原因として、先天性、リウマチ性の他に加齢性があり高齢化社会に伴い急増しているが、左室(26) ^圧 負荷により左室肥大をきたす。

大動脈弁狭窄症に典型的な症状として、労作時呼吸困難、胸痛、(27) ^{矢状中} がある。

大動脈弁狭窄症の標準治療は外科的大動脈弁置換術であるが、高リスクもしくは不可能な患者に対して(28) ^{TAVI} が適応となる。

日本では現在年間約(29: ①10 万人②20 万人③30 万人から正しいものを一つ選び数字で答えよ)が突然死を起こしており、そのうち約(30: ①1 万人②6 万人③11 万人から正しいもの一つ選び数字で答えよ)が心臓に原因がある、いわゆる心臓突然死である。日本では一般市民が使用できる(31) ^{AED} が駅、学校、交番など公共施設を中心に 30 万台配備されており、心肺停止例に対して(31) ^{AED} で蘇生されると、救命率は高い。心臓突然死の蘇生例はその後再発を起こす可能性が高いため、禁忌がなければ(32) ^{ICD} 植込みの治療を受ける。植込まれた患者では、上室性不整脈や電磁干渉による(33) ^{ICD} に注意が必要で、また車の運転も原則禁止される。

肺高血圧症を疑う場合の聴診所見としては、(34) ^{設作動} 弁の収縮期雑音や(35) ^{三尖} 弁の逆流性雑音を認める。肺高血圧症患者の心エコー検査では右室負荷を反映する所見として、(36) ^{月動脈} の圧排所見が特徴的である。心エコー等の非侵襲的な検査を施行した後に、肺高血圧症として(37) ^{心室中隔} の確定診断には、侵襲的な検査である(37) ^{心室中隔} 検査が有用である。

【問 38-57】 次の 38-57 の空欄に正しい単語を埋めよ。

たこつぼ心筋症は、身体的・精神的(38) ^{スレスレ} の後に発症することが特徴である。

不均一な心臓肥大が認められる時には、高血圧による心肥大よりも(39) ^{ARVC} を疑う。

(40) ^{ARVC} では右心室の拡大や脂肪変性が認められる。重症不整脈のリスクが高い時には(41) ^{ペースメーカー} 挿入による治療を行う。

連続性雑音を聴取する疾患としては、(42) ^{PDA}、(43) ^{冠動脈瘤} の他、(44) ^{バルサルバ洞動脈瘤破裂} などを鑑別疾患に挙げなければならない。頸静脈の視診では、心音を聴取しながら、a 波、v 波、x 谷、y 谷に注意して診断を行う。v 波が増高している場合、(45) ^{TR} を疑い、診察を進める必要がある。

Marfan 症候群の視診では、高身長、(46) ^{くも膜下出血}、水晶体の亜脱臼などに注意をする必要がある。本症の場合、解離性大動脈瘤、大動脈弁輪の拡大に伴う大動脈弁閉鎖症以外には、心臓弁膜症として(47) ^{AR} に留意して診察をする必要がある。高脂血症に伴う所見として、黄色腫の診断を見落としてはならない。黄色腫は(48) ^{肥厚} に観察されることが多いが、触診上は(49) ^{肥厚} の肥厚も見落としてはならない。

二尖瓣性閉鎖, mitral face
 僧帽弁狭窄症に伴う視診上の重要な所見は(50)である。肥大型閉塞型心筋症では、頸動脈で(51)を触知することが特徴である。迷走神経刺激により発作性上室性頻拍を止める場合には(52)法、Ashner 法、頸動脈の圧迫などの方法がある Cannon wave とは、(53)の際に観察される頸静脈の視診で a 波の著しい増高を言う。 完全房室ブロック

バルサルバ
 (54)や(55)といった心疾患は、成人期に診断される成人先天性心疾患の代表である。一方、Fallot 四徴症のほとんどは小児期に診断・手術されて、予後が改善するが、成人期への(56)医療の中で、(57)閉鎖不全の問題が発生する。

大動脈二尖弁, ASD, 移行型, 肺動脈弁

【問 58-63】 次の 58-63 の空欄に正しい単語を埋めよ。

安静臥床時の全身エネルギー代謝(酸素消費量で約 3.5 ml/kg/分に相当)を 1 安静臥床時の全身エネルギー代謝(酸素消費量で約(3.5) ml/kg/分に相当)を 1(58)とする。

ME7S

心係数(cardiac index)は、(59)を体表面積で割った指標である。

2.2 Cardiac output 1.8
 心係数が(60)L/分/m² 以下では組織灌流が不十分であり、肺動脈楔入圧が(61)mmHg 以上では肺うっ血に陥る。

NYHA

自覚症状からおおよその心機能を評価する(62)分類が良く用いられる。

呼吸困難で受診した患者では、心不全の診断に血中(63)濃度測定が有用である。

BNP